ウエ仆確認1 OK																			
)14年度 総合職目標シート(1117年117日日1		成	成果評価者 (印)	ウエイト確認2	OK Y		- T / T	成果評価基準	*評価点	は0.5点単位として0~5	点の範囲	で記載する	**			
社員	11 22011		1							_	項目が数値化できてない場合	4014 1 30				数値目標の目安		_	総合評価点
	名 田代 俊郎 入社日	2007年4月1日 1)	」 部に社員コード・作成日・資格等級・年間計画を記入す	ਰ ਰ	1	1次評価	2 次評価	最終評価			課題に対する「目標値」のすべての項目で、					130%以上		S	391以上
	属システム管理 年齢		承認(項目・ウエイト)	-	本人	所属課長	· 所属部長	社長			課題に対する「目標値」のすべての項目で、 課題に対する「目標値」のほとんどで、期待			一块进用的	7.	111~129%		A	331~390
担当	業務 S E 業務 資格等級	0) 江及 0万	を受け管理部へ提出(保管)	/	タケックス構						課題に対する「目標値」のほとんどの項目で					91~110%		В	271~330
本	人 所属課 所属部長 社 長		定日に管理部より原紙配布 部門長へ提出する(考課会議·面接)	(2	015.02.17						課題に関する「目標値」のほどんどの項目で課題に関する「目標値」の全て期待水準をプ					71~90% 70%以下		C	211~270 210未満
627	בריבידם בריבידם בריבידם	5) 追加項目は社長			田代						BINCE-BUY OF BUILDING TO STATE OF THE STATE		T TOO IT DAYS IN ORDING	. 31,5 4 63		10,000			2100100
2014	プラフ海 1.01.20 井本 第7ックス 2014/06/01 味志 第本報制		長、部長、社長(決定評価)の順とする	_			ウェ仆の合計が各	 -期100になるよう数値	∖, 										
1		7) 年間考課は、下	期成果評価に合わせて能力評価を行う(部門	長)				最大は30を超えな		\leftarrow	一 自己評価:成績評価基準にて記入(<mark>0. !</mark>	5 ~ 5თ0. 5		ト [0] は			評価該当な		以
	目標項目	目標実現の為の詳細内容	実施内容(手段・方法)	到達点(数値·状態)	上期	P# ₩ 4 1		動及び完了月を矢印で 半期 ┃第3四半期 ┃第		↓	自己評価(本人)		1 次評価 ■ 部門長評価 (課長)	評価	<u>2 次評価</u> │ 統括部門長(部長)	】 決定評価 ▼ 社長	上期	<u>成果</u> 下期	年間
NO			7.12.172 11.11.12.11	对是从《外篇 化心》	ウエイト			9 10 11 12 1		上期下		上期下		上期下期		上期 下期	評価点		評価点
	モノづくり革新 業務改善	自部門の業務改善を行い、効率化、電子化を進める 1. 業務フロー改善 部門実行計画目標:1件以上/年		1. 業務フロー最適化目標 1件 2. 定例業務電子化 目標 1件		現状	分				1. 業務フロー最適化 上期で完了 (進捗100%) 対象: 月末EDP処理(34項目対応)								
	*1746	2. 定例業務電子化 部門実行計画目標: 1件以上/年					課題検 新業務7	D-運 新業務2D-運	田台学名書		2.定例業務電子化 0件 (進捗90%) 対象:システム変更依頼ワーケフロー(試作フロー作成完了)								
1		他部門よりの改善提案への対応 3.システム改善提案対応により業務時間を短縮する	2. 各部門からの改善提案に対応し	3. 改善依頼 年間対応目標: 15년	件 20	15			-	3 3		3.5		3		3	60		
		0. ノハ / A 以音ル末列心により末切時间で及船する	同時間の末初以音とリン				システム改善対応7件	システム改善対	対応8件		3. 改善依頼 下期実績:13件 (進捗								
											162% 内容:・追加注文時の消費税チェック機能: 2014.10								
\vdash	モノづくり革新	社内の業務精度の向上に寄与する	1. 作業日報管理システム	1. 日報管理システム開発~継続。	運用	業務	台帳・日報入力開発/	導入			受入給杏自荷管理ツール機能追加 1.品管日報管理システム (進参100%)			\vdash					
	管理精度の向上	 間接部門の作業実績管理精度の向上 販売予測精度の向上 	2. 販売予測シミュレーションシステム 3. 現在の管理指標データを分析・精査する	(品質管理・設計・システム管 2. 販売予測シミュレーション	(理)		日報集計開発	·導入			現在、品管・設計・システム管理で運用継続中 ※設計課より新規要望受理(2015.2)、3月対応開始								
		2. 販売予測有度の向工 3. 氾濫しているデータを整理し、継続的に管理す		システムを構築、運用する				販売予測データ定	義・システム化		2.販売予測シミュレーション※計画変更 (進捗 一%) 3.管理指標データメンテナンス (進捗100%)								
	•	4. 原価データを収集して予実管理精度を向上させ	5. 原価データを利用した新製品/特注品等の 見積精度向上、およびeValueデータと連携し	3. 管理指標データー覧の作成 4. 随時管理データ精度向上対応3	宇族	管理	指標データ一覧作成	随時管理データ精度向	上対応実施		下期実績:ITセル実績補正対応:2015.1								
	ļ.	5. セグメント会計の実施	た	5. 特注品予実管理フォーマット作成		特注	品予実管理作 部	門別予実管理フォーマット作成			未運用パッチ処理整理(6機能):2015.2 4.管理データ関連(随時対応) (実績 3件)								
2		6. 内部統制管理精度向上	セグメント会計の実施 6. 内部統制(業務プロス統制)管理運用精度の向上	部門別予実管理フォーマット作成 6 内部統制監査対応	15	10				3 3	下期実績:為替影響調査データ提供:2014.12など 5.特注予実管理 上期で対応完了 (進捗100%)	3.0		3		3	45		
			S. F. Japanen (A. 33) - Constant Bernard Constant	(指摘事項対応・社内運用正式	化)		内部統制管理運用	の継続・指摘事項への随時	対応		売上実績管理ツール提供・機能追加完了 (月度実績報告資料自動作成機能)								
											6.内部統制管理(随時対応) (実績 18件)								
											システム障害対応実績:1件 例外処理対応実績:4件								
											アカウント申請・過去データ変更申請:13件								
		事業継続計画(BCP)の推進	1. 大規模災害を想定したシステムデータ	1. 災害対策情報収集			災害対策情報収集				1.災害対策情報収集 1.災害対策情報収集:完了 ※2014.11セミナー参加								
3	大規模災害対策		のバックアップ方法の検討・運用 	2. 答申資料作成	10	10	答申資料作	i 導入検討・運	用開始	3 3	2.答申資料作成:完了2015.1	3.0		3		3	30		
							117 3411		—		※2015.1.7答申資料説明会開催(その際の社長 指示								
		専任業務の多能工化	1. 社内業務の停滞を防止する	1. 多能工化個人目標 10件			多能工化5件				1. 多能工化個人実績 (進捗140%) 下期実績: 7件								
4	多能工の推進	多能工化部門目標 10件/年			15	10	罗能工165円	多能工化!	6件	3 3	・FAXサーバ運用管理	3.0		3		3	45		
\vdash		A IN COLUMN TO THE REAL PROPERTY OF THE PROPER			\rightarrow				-		・月初EDP業務など								
	社内イントラネット環境の移行 社内パソコンのリプレース	1. ガルーン(ファイル管理)のeValueNSへの移行 2. 社内のWinXPパソコンをWin7へリプレースする	1. 手順書ファイルなどの移行作業 2. P C 導入	1. 2, 000ファイル移行 2. 上期中の導入完了			Windows7PC導入				1.手順書ファイルなどの移行作業:上期完了 2.PC導入 (進捗100%)								
5	12131 () 2 2 33 3 3 2 3 1	- 12 12 13 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2.7.0471	2. 2/1 1 47 47 (76.1	10	10				3 3	3 ・ノートPC設定、配布 担当7台完了 2014.10	3.0		3		3	30		
											・既存PCのOSパージョンアップ 担当6台完了2014.11	1							
	次期生産管理システムの検討	次世代生産方式に合致した 生産管理システムの導入を検討する	1. 現状の業務内容の分析 2. 業務設計	1. 期末の答申に必要となる調査、 分析などの作業を随時行う			現状分析など	<u> </u>			1. 業務フロー作成 完了94本/全119本(進参78%) ※業務フロー作成2月末完了予定(実績は2.16時								
6		主座官項ンステムの導入を検討する	2. 未伤政司	ガがなどの下来を随時刊フ	10	25		業務設計	など	3 3	・NECシステム基礎教育受講(全8回)完了 2015.1	2.5		2. 5		2.5	25		
			期間内の部門業績の達成と寄与	QCD等の達成と寄与	5	5				2 2	・その他、全体会議、他社デモ等参加 1.下朔棠續遠成率 90% (9達成/10目標)	3		3		3	15		
				業務改善の実施への寄与	5				実施	3 3	未達:定例業務電子化(業務フロー作成注力の為)	3		3		3	15		
堕		■評価詳細内容は下段に記載		前期からの能力向上	5	5				3 3	2. 下期業務改善寄与 28項目 (システム変更対応13.データ提供15)	3		3		3	15		
定					5	5				3 3	3.能力向上 7項目(月初業務など多能工化7項目) 4.社内活動寄与 3項目	3		3		3	15		
			5 S や社内活動の参画と実績	自部門の達成と活動寄与		,					(蟻カート。運用手順作成/内部統制被監査者/5S活								
				MAX=100	100	100 * 🛅	定項目の配点に	は変更してはならな	ly.							評価点計	295	0	0
													成果点(A)	2. 95					
_	*『加点評価目標』(期間内に追	追加された、新規目標テーマ社長承認が必	(英)	(ウエイトは最大5まで)			7 - 10 - 10	シャパウファナケケー	-1±k\	\vdash	- 自己評価:成績評価基準にて記入(S~[))	1 Va ST LT		0.7ET/E	No. of the last last			
	目標項目	目標実現の為の詳細内容	実施内容(手段・方法)	到達点(数値・状態)	上期	P # 1		動及び完了月を矢印で 半期 ┃第3四半期┃第		↓	自己評価(本人)	評価	1 次評価 部門長評価 (課長)	評価	2 次評価	決定評価 社長	上期	成果 下期	年間
NO	, pp -24 M	to broke state and an \$1,400 L \$195.	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		ウエイト			9 10 11 12 1		上期下	期 コメント(達成度合を記入)	上期下		上期下期		上期下期	評価点		評価点
7																	0	0	0
	/ com m e /																		
.	(追加理由)	自己評価コメント(上表で書けない	3場合)		欠・2 次評価コ	メント(特記)	事項があれば部門	長又は統括部門長が記	!入)	成果に	対する総合コメント(特記すべき事項があれば	社長が記	入)			成果点(B)	0. 00	0.00	0.00
之 五 月	I ₿																		
Ā	.														賞与考課	総合評価点	295		
部																(A) + (B)	290		
\Box	印															総合成果点 (A) + (B)	2. 95		
																(A) + (B) ランク	В		
																	U		